

幼稚園(学校)評価とは??

幼稚園に限らず、小、中学校、高校と、文部科学省の管轄の教育施設で行われている取組で、自分の園(学校)での教育を自分たちで評価し、その評価を次につなげていくことで、より良い教育を実践していこうという取組です。
評価→反省→保育実践を繰り返し、子どもたちの育ちに合った教育を目指していくためのものです。



評価の仕方は、大きく分けて3つ。『教職員評価』、『保護者評価』、評価委員会による『第三者評価』です。定期的にこの3つの評価を行い、その反省を受けて園全体で会議を行い、担任の先生方が日々の保育にいかしていきます。

～ 教職員評価の仕方 ～

新年度スタート前に、今年の園全体の子どもの育ちの目標や、各年齢の子どもの育ちの目標を、職員で検討し定めています。そして、その目標の姿に近付けていくためにはどんな育ちを積み重ねていけばいいのかも細かく検討していきます。そこででた予想される育ちの過程の姿を段階ごとの目標(評価のポイント)と定め、その目標が達成できたかどうかで評価しています。

～ 保護者評価の仕方 ～

保育参観後に保護者の方からアンケートをとることで評価しています。お家の方の目線での子どもの育ちを評価してもらうことで、教職員の視点では見えていない育ちを感じたり、園での教育が子どもの育ちに合っているかを検証したりなど、教職員評価を裏付けする大切な資料とさせていただいています。

～ 第三者評価の仕方 ～

はじめに紹介した、評価委員さんに評価していただきます。教職員評価の結果や保護者評価の結果を踏まえ、園でどのように対応していくのか考え、どのように進めているのかも含めて、全体的に評価していただいています。

このように京ヶ瀬幼稚園では、子どもたちの育ちの姿から園での教育を評価し、反省することで、より子どもの育ちに添った教育を目指して、日々の保育に臨んでいます。

